

ホスピスだより

tender loving care vol.7



松山ベテル病院 ホスピス病棟
〒790-0833
松山市祝谷6丁目1229番地
TEL 089(925)5000
FAX 089(925)5599
ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院

医師：竹内 亮



初めまして 竹内 亮（たけうちあきら）と申します。
4月より松山ベテル病院に勤務となりました。

まずは自己紹介です。

昭和38年バレンタインデーの生まれです。昭和63年山口大学を卒業し、その後救急、消化器外科に携わってきました。外科の仕事をしてながら緩和ケアに惹かれ、最近の3年半は福岡県の小倉にある独立型ホスピス”聖ヨハネ病院”で緩和ケアを専門に診ていました。

いろいろな縁があって、4月より松山ベテル病院にお世話になることになりました。

ところで皆さんはホスピス・緩和ケアに対してどのようなイメージを持たれていますか。最近はずいぶん払拭されてきたとはいえ、まだまだネガティブなイメージがあります。どうしても「死」に直面している場所だからでしょうか。

でも意外かもしれませんが、4階病棟には「明るさ」があります。もちろんお別れとしての涙や後悔などもありますが、それ以上に「明るさ」があります。それは自分らしく生きるという「明るさ」です。

当たり前ですが、死と生は表裏一体です。

歌手の平井堅さんや中島美嘉さんがカバーしている古い名曲に「ローズ」という曲があります。その中で

“And the soul afraid of dying, that never learns to live”

と言う歌詞があります。私なりに訳せば「死をおそれていては、生きるということがわからない」です。

ホスピスではその人が近づいてきた「死」を受け入れ正面と向き合うことで、「生きる」希望が生まれます。それは、自らをよりよく自分らしく生きるための希望であったり、次の人に命のバトンを渡そうとすることであったり、今までの人生を振り返る事であったりします。

その一人一人のいろいろな考えを聴き、側にいて、手助けをし、その人が最後まで自分であろうとする事をお手伝いする、それが緩和ケアでそれを提供する場所が、ホスピスであろうと思います。

そしてその生きようとする希望とその姿勢が、病棟を明るくさせていると思います。

緩和ケアは癌になった人たちだけのものではありません。癌になった人の家族にも必要です。

また将来癌になるかもしれない人たちにも必要です。

いつでも病棟を見に来てください。いつでも話をしに来てください。まずは知らなければ、それが必要かどうか解りませんから。

そして将来的に患者さんの自宅が小さなホスピスになるように、在宅での緩和ケアがどこでもいつでもできるようになればよいかなと思っています。

4階の緩和ケア病棟でうろうろしていると思いますので今後、よろしくお願ひします。

4階ホスピス病棟 看護師長：松本 千賀子



この4月に道後ベテルホームから松山ベテル病院ホスピス病棟へ異動になりました。老人保健施設からホスピス病棟への異動は少し異例のように思われるかもしれませんが、元々ベテル病院に10年ほど勤務しておりましたので、私としては古巣に帰って来たという感じです。ただ、久しぶりの病院勤務ですので、新人のような懐かしい緊張感もあり、気持ちを新たにしております。

私事ですが、新人看護師の頃は小児科に勤務していました。小さな乳幼児を目の前に、これから先どのような人生を歩むのか、新米のパパやママと一緒に子供の未来に思いを馳せたものでした。その後、縁あって松山ベテル病院で働くことになり、人生の終末を迎えている方々のケアにあたることも多くなりました。すると今度は、その人のそれまでの歴史に思いを馳せるようになりました。目の前にいる患者様は、皆それぞれに個人の貴重な歴史を持っておられる方々だったからです。そして、その重みを感じつつ、人の生き死に立ち会う看護師という職業に不思議な使命感を感じたものです。

当病棟ではまだ日の浅い私ですので、ホスピス病棟について自分の言葉で上手く語ることはできません。ただ、当病棟に入院してこられる患者様やご家族様は、とてもお疲れの状態でご入院される方が多いように思います。それまで、辛い治療に耐えてこられ、人には言えないさまざまな苦痛を抱え込んでいるのかもしれませんが、あるいは、不安に押し潰されそうになっているのかもしれませんが、入院後に苦痛が和らぎ良い表情をされると、本当に良かったと心から思います。お一人おひとりの症状緩和を積極的に行いながら、患者様やご家族様のサポートをさせていただくことが、当病棟の役割であると考えています。

そして何より、その人がその人らしく、その人自身の選択で生き抜くことができるようにお手伝いしたいと思っています。これからも精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

医師：西久保 直樹



大学卒業後、呼吸器内科を専攻し肺癌に対する抗癌剤治療を日々行っていました。毎日が検査、写真から肺癌を診断し、抗癌剤治療を行いながら腫瘍が大きくなった、小さくなった、副作用が無かったとその検査結果、評価に一喜一憂する日々でした。それでもいずれ効果がなくなる日がきます。正直、出来るだけその日が来てほしくないと思うのは、医療者も同様でした。といっても効果がなくなった、他に治療方法が無いということをご報告したくない、どうしていいか判らない（これから患者さんとどう接していったらいいか判らない）というのが本音でした。治療の始めに抗癌剤を使用するに当たって患者さんはこれで治ると考えます。医療者は、幾分の抑制が出来れば良いと考えています。最初に十分な説明が、その後の説明がどれだけ出来ているかということになります。説明した、説明していた・・・はずという結果が多い、多かったのではと考えます。

今、ベテル病院においてホスピス、緩和ケアに従事して三年目を迎えようとしています。まだまだ井の中の蛙状態ですが、今自分が大切に考えていることは、症状の緩和において、患者さんや、その家族が不安をなくす、少なくする、安心出来るということがあります。すべての解決にはなりません、十分な情報の提供、判る説明、いつでも質問できる環境を提供できることを大切にしたいと考えています。

ハープセラピーの役割

ボランティア：仙波 美智子

この数年ベテル病院で、ホスピス患者さんと個人セッション、またチャペルや遺族の方々の会でハープ演奏の機会を頂いております。毎回、看護師長さんをはじめ看護師さんたちに御手数をおかけしながら、ミニハープと共に患者さんの傍らで音楽やお話のひとつときを共にするようになりました。これまでの体験から特に心に残っていることを御紹介します。



1. 生と死の架け橋となる音楽

個人セッションの日。付き添いのご家族から患者さんがかつて過ごした国の曲をリクエストされました。患者さんは目を閉じて眠っておられるようでしたが、弾かせていただきました。ご家族の1人から「涙流しているから聴いているんですね」と、その方も涙しながら言って下さいました。数日後看護師長さんからその患者さんはしばらくして天に召されたということをお聞きし、心がふるえました。いつものように病室に案内して下さいました看護師長さんは、もし私に詳細を伝えていたら、それはハープの音色にも影響するだろうと後で教えて下さったのです。改めて看護師長さんのご配慮に感謝しました。

2. 患者さんだけでなく付き添いの方にも働きかける音楽

個人セッションを始めた頃は、患者さんの心の安らぎのためにという思いでハープを弾いておりました。しかし、ご家族の方が涙されることもよくあります。そこでお話を通して、ストレスやさまざまな思いから一瞬開放されておられるということが伝わってきました。

一般のコンサートと違いハープセラピーではヘルツ（周波数）を低くし、また、深く聴くためにテンポも落として演奏することを心がけております。古代から癒しに使われているハープは素朴で個人的な楽器です。私もハープに救われてきました。いかなる病も音楽と関係があると言います。患者さんからも本当にさまざまな曲をリクエストされます。これからも人生に美と調和をもたらす音楽の力を信じてハープセラピーを続けていこうと思っております。



ベテルボランティア紹介
「アイリッシュハープ」

2009年 春



イベント紹介

ひがしコーラス
の
みなさま

素敵な美声がチャペル全体に響きました。みんなで一緒に楽しめる時間です。





ボランティア募集しています!!



病室に外から風を運んでくださる方、花を生けてくださる方、午後のひと時、一緒にティータイムを楽しんでくださる方、「最期を自分の家で過ごしたい。」と帰られたけれど、寂しい思いをがまんしておられる方のご自宅に訪問して下さる方。

ボランティアの募集と育成を企画しております。ご協力いただける方のご連絡をお待ちしております。

TEL : 089-925-5000(代) FAX : 089-925-5599 E-mail : volunteer@bethel.or.jp
ボランティア委員会(担当:村井・河上)



陶芸教室

どなたでもお気軽にどうぞ♪

大切な方へ...



自分へ...

世界で一つだけのもの、 作りませんか?

日時
毎月第3火曜日
午後2時～
場所
4階 談話コーナー

ホスピス献金をお願いします!!

ホスピス献金は、聖愛会ボランティア活動運営資金・各行事運営資金などに使わせていただいています。皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金★ 〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会（松山ベテル病院内）

★郵便振替口座★ 口座番号：01610-2-25364
名 義：松山ベテル後援会

編集後記：お待たせしました。1年半ぶりにVol. 7ホスピスだよりを発刊する事ができました。御協力頂いた皆様に感謝★感謝。4月から、新しい医師、師長を迎えて新たなスタートをきりました。今後も「へえ～、ベテルホスピスってこんな所なんだ～」って思って頂ける内容になるように、情報を集めていきたいと思ひます。次回もお楽しみに～♪

編集委員会：西久保、川久保、西原、白井